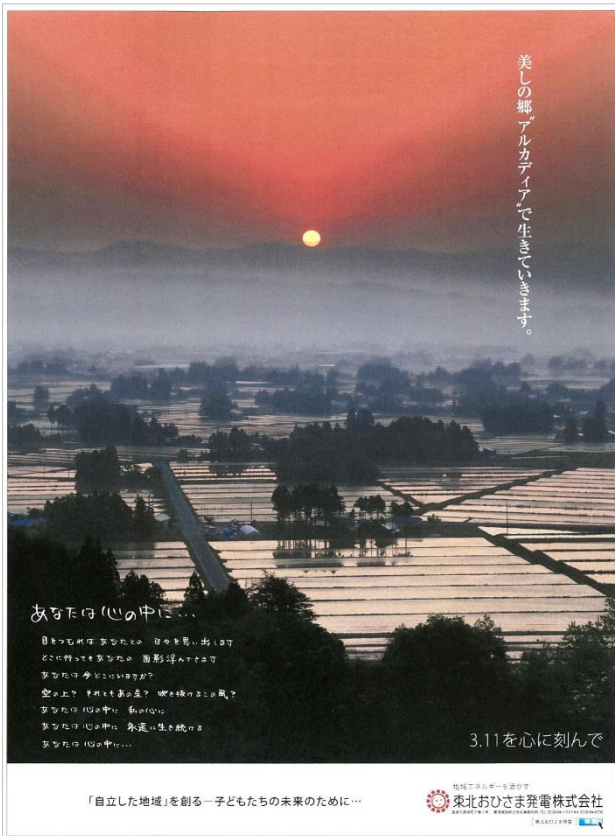




美しい郷 “アルカディア”



この美しい写真は、私共のクライアントでもある「東北おひさま発電株式会社」の今年の震災記念日に山形新聞に掲出した全面広告です。郷土やまがたを「美しい郷 “アルカディア”」と謳ったものです！折しも今年、英国人の女性紀行作家イザベラ・バードが山形県など北日本を旅してから140年に当たるようで、読売新聞の山形版でも特集しておりました。（「バードの旅から140年」「山形路とその今」）イザベラ・バードは、1878（明治11）年に来日して東北、北海道などを旅し、山形県にも置賜から入って上山、山形、尾花沢、新庄、金山と北上しながら、その様子を「日本奥地紀行」としてまとめられ、英国でベストセラーとなったそうです。

旅の出来事と感想を綴りながら旅を続け、全体的には辛口コメントが多い中で、山形県に入ると美しい自然と田園風景や人々とその暮らし向きを称賛する記述が散見されるそう

です。中でも、赤湯など置賜地方の風景を見たとき、有名な「東洋のアルカディア（理想郷）」という表現で絶賛しています。「まったくエデンの園である。…豊饒（ほうじょう）にして微笑む大地であり、アジアのアルカディアである」「繁栄し、自立し、その豊かな大地のすべては、それを耕す人々に属し、圧制から解放されている。これは、専制政治下にあるアジアの中では注目に値する光景だ」「美しさ、勤勉、安楽に満ちた魅惑的な地域」「どこを見渡しても豊かで美しい農村」――。（山形路の旅は続きます）新庄を出てから、険しい尾根を越えて、非常に美しい風変りな盆地に入った。ピラミッド形の丘陵が半円を描いており、その山頂までピラミッド形の杉の林で覆われ、北方へ向う通行をすべて阻上しているように見えるので、ますます奇異の感を与えた。その麓に金山の町がある。ロマンチックな雰囲気のある場所である。山形県内を北上しながら、素朴な山形県民に触れた女性旅行家イザベラ・バードが、季節も時代も違うけれど、「アルカディア（理想郷）」と呼んだ心境、この美しい写真一枚からでもわかる気がいたします。



イザベラ・バード